

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アレック児童デイサービス上星川		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日	～	2026年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年1月19日	～	2026年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	、「子どもが通所を楽しみにしている」「支援に満足している」という項目で全員から「はい」の回答をいただきました。これは、当事業所が子どもたちにとって心理的安全性のある安心できる居場所であり、のびのびと過ごせる環境を提供できている。	子どもたちが「明日も行きたい!」と思えるよう、日々の活動プログラムが固定化しないよう職員間で定期的話し合い、児童の意見も積極的に取り入れる工夫を行っています。また、日々の朝礼や昼礼、終礼を通じて職員間でその日の支援内容や児童の些細な変化を細かく共有し、一人ひとりのペースに合わせた丁寧な関わりを意識しています。	現在の満足度に甘んじることなく、個別のニーズにさらに深く応えるため、アセスメントツールを活用した客観的な分析を強化します。平日や休日、長期休暇といった多様な場面に応じたよりきめ細やかなプログラムを立案し、子どもたちの自己肯定感を高める成功体験を意図的に創出できるような、より質の高い支援内容へとブラッシュアップを図っていきます。
2	日々の送迎時における保護者様とのコミュニケーションがしっかりとできている点も強みです。日頃から子どもの状況を伝え合っているという項目で高い評価を頂戴しました。ご家庭や学校での変化をこまめに共有していただき、事業所内でもその情報を速やかに共有して日々の支援に活かすという、双方向のコミュニケーション体制が機能している。	送迎時の短い時間でも、その日の活動内容やポジティブなエピソードを必ず直接お伝えするよう意識しています。また、ご自宅や学校でのお困りごとがないか積極的にお声掛けし、相談に応じやすい関係性づくりに努めています。定期的なアセスメントはもちろん、インスタグラム等のSNSも活用しながら日々の活動風景を発信し、開かれた施設運営を心がけています。	現在は送迎時の口頭での共有が中心となっていますが、保護者様の対応力向上に向けたペアレント・トレーニングのような、一歩踏み込んだ専門的な支援体制の構築を検討します。また、担当教員との情報共有だけでなく、就学前の支援機関や卒業後の移行先となる事業所等との連携をより強固にし、地域全体で子どもを支えるシームレスな体制を強化します。
3	非常災害に対する備えや訓練が定期的実施され、保護者様にも認知されている点です。避難訓練などの実施について、保護者様全員から「はい」の回答を得ています。当事業所では毎年6月と12月に防災訓練週間を設けるなど、子どもたちの命を守るための安全管理体制を組織的に構築し、実践できていることは、保護者様の安心感に繋がっている。	防災訓練週間をただの行事として終わらせず、実際の災害を想定した実践的な訓練となるよう意識して取り組んでいます。また、アレック対応においても医師の指示書に基づき、提供するおやつは事前に保護者様に確認いただいたものに限定し、ファイリングした情報を取前にも入念に確認するなど、常に潜むリスクの徹底管理に努めています。	各種マニュアルのさらなる見直しを行うとともに、保護者様へのより丁寧な周知・説明を徹底します。アンケートで「多分されているかも」というご意見もあったため、今後は事業所だけでなく、訓練の様子を具体的に報告したり、ヒヤリハット事例の共有をさらに活性化させたりすることで、ご家庭と一体となった強固な安全管理体制の構築を目指します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	アンケートにて「パートスタッフさんにばらつきがある」「専門性はあまり感じない。見守り程度」といった大変厳しい指摘を頂戴しました。指導員によって対応の質や児童への理解度に差があり、提供する支援の専門性が保護者様に十分に伝わっていない、あるいは実際の現場において専門的なアプローチが不足している。	毎月動画をを用いた研修は行っているものの、それが日々の実践的なスキルアップに直結していないことが要因と考えられます。また、常勤とパート間でのスキル継承や、支援の意図(なぜその対応をするのか)を深く言語化して共有するカンファレンスの時間が不足しており、結果としてスタッフによって「わかっている方とそうでない方」の差を生んでしまっています。	職員の専門性向上に向け、動画研修に加え、専門機関と連携した外部研修の受講や専門家から直接助言を受ける機会を積極的に設けます。また、事業所内でのケース会議を充実させ、支援の意図やアプローチ方法をスタッフ全員で擦り合わせることで、「誰が対応しても質の高い専門的な支援」を提供できる均質なチーム作りを徹底していきます。
2	障害のない子どもたちや地域社会との交流機会の乏しさです。「放課後児童クラブや児童館との交流」について、「ないと思う」というご意見や「どちらともいえない」という評価が目立ちました。現状、外出先での関わり程度に留まっており、事業所内での活動が中心となりがちで、地域住民を招待するような開かれた交流事業ができていない。	日々のスケジュール管理や安全確保に追われ、偶発的な関わり以上の、計画的で継続的な地域交流プログラムを企画・立案する余裕が事業所側で不足していることが最大の要因です。また、地域の児童館や専門機関と連携するための関係構築に向けた積極的なアプローチを事業所から行っておらず、現状維持の閉鎖的な環境に留まってしまっていると分析しています。	事業所の行事に地域住民を招待するイベントを企画するなどを企画していきます。具体的には、近隣の公園での清掃活動への参加や、地域の児童館・放課後児童クラブとの定期的な交流の機会を模索し、子どもたちが自然な形で同年代の子どもや地域社会と触れ合い、ソーシャルスキルを育めるような外部連携プログラムを構築・実践します。
3	保護者同士の連携支援や、父母の会等の活動サポートが手薄である点です。評価表においても「必要性を感じていない」「そんな事があるのを知りました」といったご意見があり、事業所側も現在実施できていないと自己評価しています。保護者様が孤立せず、悩みや情報を共有できるようなコミュニティ形成への働きかけが事業所として欠如している。	事業所として、保護者様に対する支援を「送迎時などの一対一の個別相談」のみに限定して捉えてしまい、保護者同士を繋ぐという横のネットワーク構築への意識が希薄であったことが原因です。日々の業務に追われる中で、保護者会などを企画・運営するためのリソースを割くことができず、そうした場の必要性を啓発する取り組み自体を後回しにしてしまっていました。	まずは事業所からの情報発信として、保護者会や座談会の開催を企画し、保護者様に対してその意義や目的を丁寧にご説明するところから始めます。保護者様同士がリラックスして子育ての悩みや情報を共有できるような「お茶会」のような気軽な場を定期的な場に設け、孤立感を防ぐとともに、精神的な負担軽減に繋がるようなピアサポートの場を事業所が率先して提供します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	アレッタ児童デイサービス上星川
------	-----------------

公表日 2026年3月17日

利用児童数 30名 回収数 7名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1	0	0	・よく分かりませんが、子供が楽しく過ごせてそうなので。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1	0	0	・パートの方だと思います。あまり専門性は感じません。見守り程度でしょうか。	社員、パート含めて配置をしております。パートスタッフも専門知識を向上していけるように研修を行っておりますが、今後も安心してご利用いただくために、より専門知識を高めてまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	3	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	3	0	0		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	1	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2	5	0	0	・ないと思います。	
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	0	0	0	・パートスタッフさんにばらつきがあり、わかっている方とそうでない方の差が激しい。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	5	2	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	2	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	2	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	3	2	0	・特に必要性を感じていない。 ・そんな事があるのを知りました。	交流の必要性はご家庭ごとに異なるため、希望を確認しながら参加しやすい形を検討します。

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	2	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	3	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	2	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	2	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	0	0	0	・気分、体調が安定しているときは行きたいと言ってます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	アレッタ児童デイサービス上星川		公表日		2026年3月17日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	事業所内は段差を解消しているが、入り口に数段階がある。危険のないよう見守りを行っている。	入り口の安全面に配慮し、見守りだけでなく環境面の工夫も進めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部から意見をいただく方法を検討し、支援の見直しにつなげます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月動画を用いた研修もっており、スキルアップを目指している。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		契約時及びモニタリングの際に定期的にアセスメントを行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で話し合いを行っている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員の意見や児童の意見を取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々朝礼、昼礼を行い打ち合わせをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		業務終了前に終礼を行い、その日の出来事や翌日以降の留意点の共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		行なった課題、プログラムへの参加状況等記録に残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			必要な場面で関係機関と連絡を取り、連携しやすい体制を整えます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要に応じて学事予定の確認を行っている。また、利用児童の変化などについては担当の教員と情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者からの情報のみになってしまう事もある。今後は連携の強化を検討する。	保護者からの情報だけに頼らず、関係機関との情報共有を進めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		在学中の学校への報告は行っているものの事業所から積極的に動いているわけではない。	移行先への情報提供が必要な場合は、事業所からも早めに動けるようにします。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		現状では連携をとっていないため、今後検討していく。	地域の関係機関とつながる機会を作り、助言や研修につなげます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		外出先にて一般の児童と関わりを持つ機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の送迎時に児童の様子を伝えるとともに、自宅や学校での変化についても共有していただいている。		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		自宅や学校にて困りごとがある際などの相談に応じている。	相談対応に加えて、ご家族向けの情報提供や学べる機会を増やします。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に分かりやすく説明を行っている。また、報酬改定の際などにも説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		自宅や学校にて困りごとがある際などの相談に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		交流の希望を確認しながら、無理のない形で機会を検討します。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		連絡があった時点で迅速に事実確認をし、速やかに事情の説明及び今後についての提案等を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の活動をInstagramやホームページにて発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現状では行っていないが今後検討していく。	地域との関わり方を見直し、事業所を知っていただける機会を少しずつ作ります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師より指示書をいただき、日々提供するおやつなどについては提供前に保護者に確認をしたものに限定し、摂取できるものをファイリングしている。摂取前にもファイルを用いて安全を確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		動画を用いた研修もおこなっている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	身体拘束の指針について定めているが現状では拘束を行う事例はない。	必要な場合に適切に対応できるように、説明と記録の流れを再確認します。	